

# みやぎグリーン購入セミナー

## ～地域から始まる復興へのエコプロジェクト～

東日本大震災を契機に、エネルギーの確保や資源活用が重要視され、物品の購入をはじめとした個人のライフスタイル、産業のあり方についての見直しが求められています。

これから復旧・復興が進んでいく中で、環境配慮の視点を取り入れた持続可能な社会の構築に向けた取組を私たち一人ひとりが推進することが求められていることから、地域で行う環境配慮の取組を定着させた先進的な活動や、環境活動を通じた震災復興への取組事例を紹介しました。

日時：平成 25 年 10 月 25 日(金) 14:00～15:45

場所：夢メッセみやぎ 展示棟ステージ(エコプロダクツ東北 2013 会場内)

主催：宮城県

共催：みやぎグリーン購入ネットワーク

参加者：56 名

### ■「カーボンデモクラシー(低炭素革命)プロジェクト」

おおさきバイオエネルギー協議会事務局長

有限会社千田清掃代表取締役

千田信良氏

大震災 5 日前に完成したバイオディーゼル燃料製造設備で日量 1000 ℓ 製造。廃食油回収は岩手県から福島県まで仙台市、大崎市を中心に 500 店舗。東北初である BDF と軽油を混合した B5 燃料製造し、農水省バイオ燃料地域利用モデル実証事業に採択された。

○備蓄軽油 8000ℓを提供、震災直後から緊急災害給油基地として、公的機関の自家用発電機、公用車等緊急車両のほか、沿岸部の同業者や他県から応援にきた災害支援車に対する給油活動、バキューム車 2 台を沿岸被災地に運行させ公衆衛生確保に貢献するなど地域の復旧支援活動を支えた。

○大崎市・東北大学と連携して、津波で塩害被害を受けた農地や放射能汚染農地を再生する菜の花プロジェクトを展開。

○公的機関と災害協定を結び、備蓄供給施設としてのシステム構築、ハイブリッド発電による電力喪失回避・蓄電のための災害対応型エコエネルギー供給ステーションを計画している。



■「福島再生に向けて オーガニックコットンプロジェクトの試み」  
 NPO法人ザ・ピープル  
 いわきおてんとSUN企業組合代表 吉田恵美子氏

主に古着リサイクル事業、在宅障がい者自立支援事業など幅広く活動している。福島県いわき市では、比較的津波被害が少なかったが多くの原発被害避難者を受け入れたため、5 日後から防寒着・靴の提供、ロールカーペットの配布など御用聞きスタイルで各避難所支援をスタート。

市場に出回ることが無くなったいわき産野菜を使い自炊による炊き出しを仕掛ける。また、災害ボランティアセンター、交流サロンを開設。



○「いわきおてんと SUM プロジェクト」3 つの事業を柱に復興まちづくりを展開している。

1. オーガニックコットン

農業の再生のため、コットンの有機栽培・T シャツやコットンベイクの製品開発・販売により市民参加型事業の創出。コットンの綿と種でできた人形から、種を蒔き綿を育て仕事や人の輪を広げていく。

2. いわきコミュニティ電力(太陽光発電事業)

3. 復興スタディツアー

被災地視察、語り部講和、コットン体験

